

2019年11月18日  
日本船主協会 企画部広報室

海運の重要性を学校教育の場で  
～都内の小学校での社会科授業に協力～

日本船主協会は、日本の暮らしと産業を支える海運をはじめとする海事産業の重要性を学校教育において取り上げていただくよう、会員会社等と連携して教育関係者に対し商船や海事施設等の見学会や授業への協力、資料提供等を実施しております。

今般、オーシャン ネットワーク エクスプレス ジャパンの協力を得て、11月13日(水)に東京都内の小学校5年生の社会科授業にゲストティーチャー(同社 滝本氏)を派遣いたしました。

同校児童は本授業に先立ち、日本の主な輸出入先や多くの輸出入品があること、貿易量の99%以上が船で運ばれていることなどを事前に学習し、本授業では、これらの輸出入品が、どのような船で運ばれ、その輸送に携わる人の生の声を聞くことで、船を使って効率よく輸送するための工夫や努力について学習しました。

授業冒頭では、担任教員より、事前授業で学んだLNG、原油、自動車などはLNG船や自動車専用船など専用船で運ばれていること、専用船以外で運ぶ衣類、食料品、家具や家電などの身近なものにはコンテナ船で運ばれていることが紹介されました。

その後、滝本氏より、コンテナやコンテナ船の大きさを人や東京タワーと比較しながら、最大級のコンテナ船の全長は約400mもあり、一度に約2万個のコンテナを運ぶことができるなど画像を用いながら説明し、児童からは「コンテナを運ぶ際に海に落ちたりしないの」、

「運ぶモノによってサイズを変えているの」、  
「どのようにコンテナを積み下ろししているの」、  
「コンテナの中身は腐らないの」などの疑問が矢継ぎ早に質問され、滝本氏はひとつひとつ分かりやすく答えました。また、港に届けられたコンテナに積んだ商品が消費者に届くまでの過程も説明し、児童は普段使っているものがどのようにして自らの手に届くかを学びました。



(事前に学習した輸出入品)



(消費者に届くまでの過程を説明)

最後に児童から「お客様にきちんと商品を届けるためにも、安全第一で仕事をしていることが分かった」、「コンテナ船は温度を管理するなどたくさんの工夫をして輸出入を支えている」など授業で学んだことを発表し、船が自分たちの生活に密接に関わっていることなど船の大切さを知ることができました。

今後の授業では「もしも船での輸入が止まったらどうなる」を題材に、普段使っているものがほとんど無くなってしまう。自分たちの生活がいかに輸入（船）に支えられているかを改めて実感させ、運輸や貿易の重要性について学習する予定です。

当協会では、今後もわが国の暮らしと産業を支える海事産業を広く知っていただくための活動を展開してまいります。



(授業風景)



(教員作成のコンテナ模型を使って説明)